

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

グラウンドに背広姿の男の人が二人入ってきた。こんなところに誰だ、と見ると、校長先生と教頭先生だ。

「熊沢先生！」

教頭先生が大声で呼んだ。アッシーは走って校長先生と教頭先生のところまで行った。そして、ぼくたちから遠ざかる方向に歩きながら、三人で話し始めた。

「なんだろう？ そう思っ、みんなのほうを振り向くと、気にせず練習を続けている人たちの中で、ひとりだけ鬼のように怖い顔をしているやつがいた。」

それは賢介だった。

「なんだろうな、賢介」

ぼくは訊いてみた。賢介が何か知っているように思えたからだ。

「母さんだ」

「えっ？」

ぼくがよくわからないでいると、賢介はそつとアッシーたちのほうへ近づいて行った。ぼくも後からついて行った。十メートル、五メートルと近づいたけど、話はまだ聞こえてこない。そのとき、アッシーが大声を出し始めた。

「おかしいじゃないですか、それは」

教頭先生が何か答えたが、それは聞き取れなかった。

「おかしいですよ。ひとりの保護者の意見で決まるんですか？」

アッシーはぼくらに背を向けているので、表情は見えない。でも、声の迫力はすごい。きつとぼくや賢介を叱ったときのように、すごく怒った顔をしているんだろう。でも、校長先生たちも負けていない。しかめ面をして何か言い返していた。

「ラグビー大会は子どもたちが楽しみにしてきたことなんです。それをやれなかったら、わたしは子どもたちを裏切ったことになります」

そうか、校長先生たちはラグビー大会をやめると言っているんだ。そして、ラグビー大会をやめさせようとしているのはきつと賢介の母さんなんだ。

「子どもたちを裏切ってしまったら、わたしはもう教師は続けられません。やめるしかありません」

アッシーは断固とした声で言った。そして、校長先生たちの前に仁王様のように立っていた。アッシーのジャージを着た背中②は実際以上にふくらんでいるみたいに見えた。

ぼくはびっくりした。アッシーがやめる？ そんなのいやだ。

「ダメだよ、先生！」

後ろから大きな声が出た。振り返ると、すぐ後ろにカズがいた。ほかの人たちも後ろに集まっていた。

アッシーも振り向いた。そして、ぼくたちが集まっているのに初めて気づき、びっくりしたようだった。

「先生、やめないで」

本西、岡、石原たちが A で言った。

「先生、ラグビー大会、できないならいいよ。先生がやめるほうがいやだよ」

そう言ったのもカズだった。

アッシーは校長先生たちにちよつと会釈すると、小走りでもぼくたちのほうに近づいてきた。

「みんな、これは先生たちの問題だから、心配しないでくれ」

「でも、先生がやめちゃうんだったら、ぼくたちにも関係があります」

こう言ったのは賢介だった。賢介の顔はほこりにまみれていたけど、目だけはぎらぎら光っているように思えた。③

「やめちゃダメだよ、先生」

カズが言うと、みんなも口々に「やめないで」と言った。

「やめちゃいやだ」

ぼくも言ったけど、あまり大きな声を出せなかった。でも、同じセリフを同時に大声で言ったやつがいた。びっくりして声の主を探したら、ブタマだった。

「わかった、わかった。どうもありがとう」とアッシーは言った。「でもな、このことは先生に任せてくれ。先生はやめない。それは約束する。ただ、今日のところはもう家に帰ってくれ。ラグビー大会のことは、これからじっくり校長先生たちと話し合うから。なっ」

アッシーに真剣な顔でこう言われては、もうどうすることもできなかった。ぼくたちはしぶしぶ校舎に戻り、着替えて、家路④について。家に向かうあいだずっと、賢介は「母さんのせいだ」と言い続けていた。

家に戻ってみると、居間で弟がテレビゲームをしていた。弟の大好きなバトル物だ。男と男が一对一で、空手みたいな勝負をしている。どちらかが血を流して死ねば、ゲームオーバーだ。

「グエッ！」

弟の操作しているほうが空手チョップを食らい、すぐ派手な声を出した。でも、弟はすぐに反撃に出た。飛び上がって、蹴りを連続で食らわし、相手は額からプシューッと血を流した。さらにとどめの一撃を食らわして、相手は倒れた。

「あーあ、レベルAでも簡単に勝てるようになった。ひとりでもやってもおもしろくないや。お兄ちゃん、勝負しない？」

「いやだよ。おまえ、こんなのばかりやっているとバカになるぞ」

「お兄ちゃんだって、前はさんざんやってたじゃないか。じゃあ、もうバカになっちゃったんだ」

「生意気言うなよ。おれはバカになる前にやめたんだ。だいたい、このゲーム、人が血を流して死ぬんだぜ。おまえ、何も感じないのか？」

ゲームばかりやっていると、他人の痛みや苦しみが感じられなくなるんだ。それじゃダメなんだぞ

弟はポカンとぼくのことを見つめていた。それを見て、ぼくはなんだかますますムシクシヤしてきた。④

「自分の体で汗をかく、自分の体で痛い思いをする、それをしっかりと脳に刻み込む、それが大事なんだよ」

「偉そうに。何言ってるんだかわかんないよ」

弟は **B** をして自分の部屋に行ってしまった。

ぼくは居間のソファに寝転んで、ぼんやりと考えた。

さっきぼくが弟に言ったのは、アッシーに言われたままのことだ。あれを言われてから、ぼくはあまりテレビゲームをやらなくなった。アッシーに言われたからってだけじゃない。だんだんとラグビーが好きになり、テレビゲームよりおもしろくなったんだ。前に比べれば、ずいぶん自分の体を汗をかくようになったと思う。チームのほかの人たちのことを思いやったり、助け合ったりするようにもなった。でも、どれだけ他人の痛みや苦しみがわかっていようだろう。

ぼくはカズの家で見た、ラグビーの試合を思い出した。アッシーはあるとき、額を切り、血を流しているのに、頭からタックルしに行っていた。あれはどれくらい痛いものなんだろう。ぼくには想像もつかない。でも、アッシーはチームのみんなのために無我夢中でやっていたと言っていた。痛みなんて感じなかった、と。

アッシーは、いじめられている人の気持ちかわからないようではダメだということも言った。いじめられていたときの相沢はどんな気持ちだったんだろう？ とてもじゃないけど、あんなふうにいじめられたら、ぼくならやっていけない。学校に行かなくなるかもしれないし、転校したいと母さんに言うかもしれない。でも、そもそもいじめられているってことを母さんに話せるだろうか……。

じゃあ、今のアッシーはどういう気持ちなんだろう？ ラグビーを広めたいという一心で小学校の先生になり、ぼくたちもラグビーが大好きになったのに、ラグビー大会をやめさせられそうになっている。 **X** ラグビー大会をやめさせようとしているのは賢介の母さんだ。賢介はラグビー大会をやりたいと思っている。いま賢介はどんな気持ちなんだろう……。

「治生！」

上から声をかけられて、びくっとした。見上げると、母さんの顔が逆さまに見えた。

「何やってるの、勉強しなさい」

「あ、うん」

「塾の宿題、いっぱいあるんでしょ？ せっかく早く帰れたんだから、こういうときにやらなきゃ」

「わかったよ」

ぼくは立ち上がり、不承不承、自分の部屋に向かった。でも、机についたものの、ひとつのことばかり考えていた。

「わかったよ」 **Y** はどうなるんだろう？

(上岡伸雄「この風トライ」)

問一 **A** **B** に入る適切なことばを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A	B
ア 迷惑そうな顔	ア とぼけ面
イ 怒った顔	イ ふくれっ面
ウ 泣きそうな顔	ウ なきっ面
エ 笑顔	エ そと面

問二 線①「ひとりだけ鬼のように恐い顔をしているやつがいた」とあるが、このときの「賢介」の気持ちの説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ラグビー大会の中止を自分のせいにするのではないかと思い、恐れている。
- イ 校長先生がアッシーをやめさせようとしているのではないかと思い、怒っている。
- ウ ラグビー大会ができなくなってみんなが悲しむのではないかと思い、恐れている。
- エ 自分の母親のせいでラグビー大会ができなくなるのではないかと思い、怒っている。

問三 — 線②「アッシーのジャージを着た背中では実際以上にふくらんでいるみたいに見えた」とあるが、その理由の説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ラグビー大会の意義を理解してもらえないことに対する悲しみと、子どもたちの望みをかなえないという意欲に満ちていたから。

イ 一方的にラグビー大会の中止を押しつけた校長先生に対する怒りと、教師をやめてしまおうとするなげやりな気持ちに満ちていたから。

ウ ラグビー大会をやめさせようとする事に対する怒りと、子どもたちのために絶対に実現させようとする決意に満ちていたから。

エ ラグビー大会ができなくなる事に対する悲しみと、教師として子どもたちを裏切りたくないという責任感に満ちていたから。

問四 — 線③「目だけはぎらぎら光っているように思えた」とあるが、このときの「賢介」の気持ちの説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アッシーが学校をやめさせられてしまうことを悲しみ、今にも泣き出しそうになっている。

イ 自分たちが全員で力を合わせることで相沢とアッシーの問題は解決するだろうと思っている。

ウ アッシーにまかせておけば必ずラグビー大会を実現させてくれるだろうと信じている。

エ ラグビー大会とアッシーのことを自分自身の問題と考え、何とかしなければと必死になっている。

問五 — 線④「ぼくはなんだかますますムシヤクシヤしてきた」とあるが、その理由の説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ラグビー大会が中止になりそうなのに、自分が言ったことを弟がまったく理解していなかったから。

イ ラグビー大会が中止になりそうなのに、弟が自分のことをばかにしているように感じたから。

ウ ラグビー大会が中止になりそうなのに、生意気な弟が自分に対して反抗的な態度だったから。

エ ラグビー大会が中止になりそうなのに、自分が何を言いたいのかが自分でも分からなかったから。

問六 X に入る文として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本心に情けないことだ。

イ さぞ悔しいだろう。

ウ もう元気になっただろうか。

エ なんてつまらない人生だ。

問七 Y に入る適切なことばを本文中から六字で書きぬきなさい。

問八 「アッシー」がラグビーを通して子どもたちに学んで欲しいと考えていたことはどのようなことか。本文中のことばを用い、五十字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①「世間」の構造に関連して注目すべきことがある。政治家や財界人などが何らかの嫌疑せうけんぎをかけられたとき、しばしば「自分は無実だが、世間を騒さわがせたことについては謝罪したい」と語ることがある。この言葉を英語やドイツ語などに訳すことは不可能である。西欧人なら、自分が無実であるならば人々が自分の無実を納得するまでたたかうということになるであろう。A 日本人の場合、世間を騒がせたことについて謝罪することになる。このようなことは、世間を社会と考えている限り理解できない。世間は社会ではなく、自分が加わっている比較的ひかく小さな人間関係の環わなのである。自分は無罪であるが、自分が疑われたというだけで、自分が一員である環としての自分の世間の人々に迷惑めいわくがかかることを恐れて、謝罪するのである。

日本人は自分の名誉めいよより世間の名誉の方を大事にしているのである。岡本公三おかもとこうぞうが捕とらわれたとき、父親は自分の息子を極刑ごくけいにしてほしと語ったといわれている。わが子に極刑を望む親がいるだろうか。もしそう言わなければ父親の立場がないからなのである。私達は皆何らかの世間の中に生きている。そのおきてを守って生きているのだが、何らかのはずみで世間から後ろ指を指されたり、世間に顔向けできなくなることを皆恐れている。私達自身は気がついていないかもしれないが、皆世間に恐れを抱いだきながら生きているのである。

B 私達が何かの偶然ぐぜんで何らかの犯罪の疑いをかけられたとしよう。その瞬間から私達は自分の世間から追放され、敬称けいしょうさえうばわれてしまう。なににさん、とかなになに氏うぢという敬称は、わが国では基本的に人間としての尊厳をもつ個人の人格につけられているのではなく、世間の中における位置につけられているのである。したがって疑いかけられた瞬間から呼び捨てにされたり、なにに容疑者と呼ばれたりするのである。それは本人に限らない。ある人がたまたまそんな状況じょうきょうに立たされると、その家族も陰かげに世間から同様の仕打ちを受けるのである。家族に犯罪がでた場合などを考えてみれば解わかるであろう。

このようにいうと私達が皆世間のために苦しんでいるように見えるかもしれない。すでに述べたようにそういう面もあるが、他方で世間は私達にとって長い間に必要不可欠なものにまでなってしまうのである。

『自由からの逃走とうそう』という本があるが、もし今突然世間がなくなってしまうとしたら、私達の多くは行動の指針さししんを失って困惑こんわくしてしまうだろう。日本人は長い間世間を基準として生きてきたからであり、世間もそれなりに個人の位置に気を配ってきたからである。世間の内部では競争はできるだけ排除はいじされている。したがってあまり有能とはいえない人でも、その世間のおきてを守っている限りそこから排除されることはない。これを裏からみれば、有能な人がそれなりの位置をうるというわけではないということもできる。いずれにしても窓際族まどぎわぞうといわれる人の存在は世間が認めるところなのである。世間の中では長幼ちやうじやうの序じょが支配しはいしている。したがって能力のある者がそれなりの評価を受ける保証はない。しかし世間のおきてを守っている限り、能力のいかに問わず何らかの位置は世間の中で保てるのである。

また、もし私達が人間関係のあり方を自由に選べるとしたら、どのような人間関係を選ぶだろうか。多くの日本人は海外旅行をしても言葉の問題もあって日本人同士で集まり、その国の人々と付き合う人は多くはない。世間の中の付き合いだけで精せいいっぱいということもあるが、気心の知れない人とあまり付き合いたくないという気持ちが強いのである。私達は個人と個人のつきあいに慣れていない。日本の個人はすべて世間の中に位置を持つているから、初対面④の人の場合でもいったいどういふ人なのかをまず探らなければ付き合いがはじまらない。どういう人なのか性格なども問題にはなるが、それよりもどういふ世間に属している人なのかの問題なのである。そこで初対面の人には、まず出身校や出身地、どこの会社なのか、どのような地位なのかそれとなく聞き出し、相手がどのような世間に属している人なのかを想定する。そのうえで初めて性格や趣味しゆみなどが問題になる。世間が違いすぎると親しくなる可能性は低いのである。

競争社会の中で個性がせめぎあう関係の中を生きてゆくよりも、与えられた位置を保ち心安らかに生きてゆきたいと思っている日本人は意外に多い。日本人にとって周囲と折り合ってゆける限りで世間の中で生きる方が、競争社会の中で生きるよりは生きやすいのである。しかしこのような人間関係の中で生きていると、個人同士が付き合うときでも周囲を気にし、⑤ 闊達くわつたつとは到底とうていいえないふんい気きを持っていることになってしまう。そのことは外国人から見るとよく解わかるらしい。

欧米人は日本人のことを権威主義けんゐしぎ的てきであるとしばしばいう。権威主義的けんゐしぎてきとはいばっているということではない。自分以外の権威けんゐに依存いぞんして生きていることをいうのである。その権威が世間なのである。たとえば皆と共に行動をするとき、私達はできるだけ皆と合わせようとする。それはその限りでは協動的な行動なのであるが、時にはそれが没個性ぼつこくせい的で、権威主義的けんゐしぎてきに見えるのである。何らかの意見を聞かれたとき、自分の意見をきちんとすることが大切であるが、他の人の意見を聞きながら自分の意見をそれに合わせたりすることをも権威

主義的と呼ばれるのである。

(中略)

このようにみてくると、世間の中での個人の位置はどのようなものかという問いが浮かんでくるであろう。このような問いに対しては、わが国における個人の位置を歴史的に観察するしかないが、私達は明治以来長い間個性的に生きたいと望みながら、十分な形で個性をのばすことができなかった。そのことは、この百年の間ロングセラーとして読み続けられている夏目漱石の『坊っちゃん』を見ればすぐに解ることである。

(阿部謹也『世間』とは何か)

※1 嫌疑……疑い。

2 岡本公三……犯罪者の名前。

3 極刑……裁判での一番重い刑。日本では死刑。

4 陰に陽に……こっそりとまたは真正面から。

5 指針……方向性。

6 長幼の序……年齢による順番。

7 闊達……のびのびしていること。

8 権威……人を従わせる力。

9 ロングセラー……長い間人々に読まれている本。

問一

A · B に入る言葉として適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ それに ウ また エ たとえば オ そして

問二

——線①「世間」とはどのようなものかと言っているか。二十五字以内で書きぬきなさい。

問三

——線②「皆世間に恐れを抱きながら生きている」とあるが、どんな恐れか。四十字以内で探して、その部分の初めの五字を書きぬきなさい。

問四

——線③「世間は私達にとって長い間に必要不可欠なものにまでなってしまうのもいるのである」とあるが、なぜ必要不可欠なのか。その理由として適当と思われるものには○、不適当と思われるものには×を書きなさい。

ア 世間があると、周囲と折り合って生きられるから。

イ 世間があると、能力のある者が認められるから。

ウ 世間があると、それを基準に生きていけるから。

エ 世間があると、競争がおこり社会が活発化するから。

問五

——線④「初対面の人の場合でもいったいどういう人なのかをまず探らなければ付き合いがはじまらない。」とあるが、では初対面の人がどういふ世間に属しているかを知るための質問を、筆者の言っていることをふまえて四つ書きなさい。ただし、「あなたは……」という出だしにし、それぞれきちんとした一文の形にすること。

問六

——線⑤「それ」は何を指しているか。書きぬきなさい。

問七 この文章で述べている内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人はあまりにも世間を恐れすぎて、自分の名誉を捨てている。
- イ 日本人は世間のおきてを守っている限り、能力はあまり問われない。
- ウ 日本人は個人個人につきあいに慣れており、その集合が世間である。
- エ 欧米人は他人の意見をよく聞く日本人を、権威主義的だと言う。
- オ 夏目漱石『坊っちゃん』を読めば、個性の伸ばし方がわかる。

三

次は、児童・生徒がよんだ「短歌」です。それらを読んで、後の問いに答えなさい。

- ① 日の下でかまを手に取り稲をかる額はあせで軍手はどろで
- ② 嬉うれしいな職場体験保育園やんちやな子たちに されギユウされ
- ③ できるってしんじてけた けしきがまわるガッツポーズだ
- ④ 仲間とのそば打ち語る父の顔しろが白髪頭の少年がいる
- ⑤ 手仕上げで工作物を磨みがく音部屋中やすりのサ行ザ行音

二〇〇八年編纂「現代学生百人一首」より（一部改変）

問一 ①の短歌で使われている「表現技法」は何ですか。次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 体言止め
- イ 対句
- ウ んぎ人法
- エ 反復法
- オ 比喩法

問二 ②の短歌の には、そのすぐあとの言葉「ギユウ」と発音がにている別の言葉が入ります。その言葉を考えて答えなさい。

問三 ③の短歌は、体育の授業時間中のことだと考えられますが、 に入る言葉を想像して答えなさい。

問四 ④の短歌について説明した次のア～エの中から、適切なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 父親が楽しそうに仲間とのそば打ちの様子を語っているが、その様子は、頭の白髪も増えているのにまるで少年のようだなあと、作者は感じています。

イ 白髪が増えたことを、そば打ちをしている仲間から指摘され、がっかりして家族に話している父の姿が、少年のように単純だなあと、作者は感じています。

ウ 父親が仲間とそば打ちをしたことを楽しそうにみんなに話しているが、それを熱心に聞いている少年の姿に、作者は感動しています。

エ 年を重ねると共に少年に戻っていく老年の父の様子を、父を受け入れてくれるそば打ちの仲間への感謝の気持ちをこめて歌っています。

問五 次の文章は、⑤の短歌に関するものです。空らんに入る語を「短歌の中の語」で答えなさい。

この歌は、音感がとても良いです。**ア**が何かは分かりませんが、出来上がった物体の最後の仕上げは、機械ではなく手で仕上げているのでしょう。丁寧**イ**で磨いていく音が、工作室に響きます。その音が、さつ、さつ、さつ、という音になったり、磨く箇所によっては、**ウ**になったりする、とまるで、読者も**エ**にいる気持ちになります。**オ**だけで仕事に集中する様子を歌ったのがとても個性的です。

四 次の『たとえ』として用いられていることわざを、後の【解答群】の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 意外な災難や幸運に出会うたとえ。
- 2 いかにすぐれた人物でも時には間違えることがあるというたとえ。
- 3 うちひしがれて、うなだれていることのたとえ。
- 4 中途半端で役に立たないことのたとえ。
- 5 人の一生が波乱に満ちていて浮き沈みの激しいことのたとえ。

【解答群】

- ア 青菜に塩
- イ 犬も歩けば棒にあたる
- ウ 海老で鯛を釣る
- エ 帯に短し、たすきに長し
- オ 弘法にも筆の誤り
- カ 虎穴に入らずんば虎子を得ず
- キ 七転び八起き

五

次の『環境史年表』項目の——線の片仮名を、それぞれ漢字に改めなさい。

- 1 「地球は青かった」と人類初のウチユウ飛行士 (昭和三十六年)
- 2 超^{ちよう}高層時代のマクア^{マクア}け、霞^{かすみ}ケ^ケ関^{かん}ビル完成 (昭和四十三年)
- 3 屋久島と白神山地が日本初の世界イサンに (平成五年)
- 4 ペットボトルとガラス瓶^{びん}の再生がギム^{ギム}づけ (平成九年)
- 5 日本の樹木医会がタイの古木^{こもく}ホソ^{ホソ}ンに一役 (平成十一年)